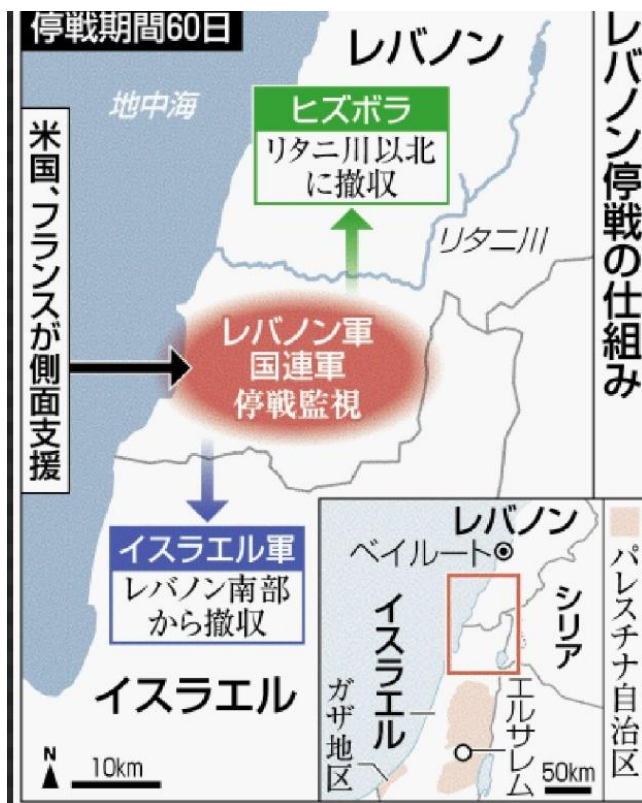


レバノン新大統領選出（589号）

2025年 1月 石館

中東レバノンの議会は1月9日、2年以上空席となっていた大統領に国軍司令官ジョセフ・アウン氏を選出した。国内政治に強い影響力を持つ親イランのイスラム教シーア派組織ヒズボラがイスラエルとの戦いで弱まったことが背景にある。今まで何回かレバノンについて書いてきたが、ヒズボラの弱体化でレバノンは大きく変わるであろう。



24年11月27日に発効したイスラエルとの停戦はもうすぐ期限切れを迎える。レバノン南部から撤退するイスラエルに代わりレバノン軍が停戦の監視にあたる。

レバノン大統領は形式的に軍の最高司令官を兼ねる。アウン氏は“レバノンの歴史は新しい段階に入る”と述べた。レバノン政治の機能不全の解消が期待される。

国軍に匹敵する軍事力を誇ったヒズボラの民兵組織を念頭に“国家には武器保有を独占する権利がある”と発言した。ヒズボラの武装解除を進め、国軍の強化に取り組む姿勢を示したとみられる。

イスラエルのサール外相はアウン氏の選出に祝意を表明し両国間の関係改善につながることを期待すると述べた。サウジアラビアなどアラブ諸国が歓迎の意向を表明した。複雑な宗教・民族構成を抱える“モザイク国家”レバノンは大統領をキリスト教徒、首相をイスラム教スンニ派、国会議長をシーア派が務めるという独特の権力分配の仕組みを持っている。ミッシェル・アウン前大統領の任期が

2022年10月に切れた後、各派の対立で空白を埋められずにいた。議会による選出の試みは12回続けて失敗した。同姓の前大統領と新大統領の間には姻戚関係はない。



アウン新大統領夫妻

ヒズボラの軍事力は、カリスマ指導者だったナスララ師がイスラエル軍によって殺害されたことに加え軍事インフラ破壊で大きな打撃を受けた。イスラエルの挑発でレバノンに戦火をもたらしたヒズボラへの不満が高まり、政治的な影響力も減じた可能性もある。

ヒズボラ、政治力が低下レバノン、2年ぶり大統領選出 - 日本...

ヒズボラが大統領候補の一人として推していたスレイマン・フランジェ氏は、シリアで権力の座を追われたアサド大統領と密接な関係を持つことで知られた。同氏が候補者となることを辞退し、米国やサウジの推すアウン氏選出の道が開けた。

レバノンは、シーア派のイランとスンニ派のサウジによる地域の覇権争いの舞台の一つだった。政治の機能不全から金融危機に対応できず経済の混乱に拍車がかかった。イランの支援を受けるヒズボラの存在は欧米による財政支援を難しくしていた。ヒズボラの影響力低下で宗派对立による政治の機能不全が解消し、多国籍支援や債務再編の協議が進めば、経済の再建やイスラエルの攻撃で破壊されたインフラの復旧に繋がる。

レバノンの内戦 1975年、キリスト教勢力とアラブ人のPLOの衝突。シリア、イスラエルが介入して国際的紛争となり、1990年まで続いた。レバノンは岐阜県ほどの面積の領土に約500万人が暮らし、様々な宗派勢力が入り交じるモザイク国家だ。内戦前のベイルートは“中東のパリ”とも言われる美しい街で、内戦前アラブの国々の駐在員は、休暇にベイルートに来るのが楽しみでそこで美味しい食事、ワイン、音楽、カジノ等で楽しみ英気を養った。

中東と聞いて思い浮かべるのは、砂漠、イスラム、ラクダ、テロ、石油、内戦という言葉であろう。女性は黒いベールをかぶり外出が許されず、男性はコーランを片手に水タバコを吸う。



かつて中東のパリと言われたベイルート、お勤

しかし中東にも青い海や緑あふれる自然、美味しいワインとシーフードを堪能できる国があるのだ。

小生はサウジに暫くいた帰り内戦前のベイルートを訪れたことがあるが、こんな素晴らしいところがあるのかとこの国に魅入られた。

しかし内戦後はほとんど破壊され昔の面影はなくなっただらしい。

特別背任などの罪で起訴、保釈中だったカルロスゴーンが逃亡した先はベイルートだった。ブラジルとフランス、レバノンの3カ国の国籍を持つ被告が最後に頼ったのはレバノンだった。そこは中東屈指の美食の国だ。ゴーン被告はどんな料理を食べているのであろうか。

禁酒国家もある中東で、レバノンはフランスに委任統治された歴史を持ち、優れたワインの生産国だ。ゴーン被告も、首都ベイルート北方の地中海に近い丘陵地帯に、ワインの醸造所を共同創業している。地中海沿いのレストランでは、新鮮な海鮮料理に舌鼓を打ちながらワインで喉を潤わす。こんな贅沢が可能になるのがレバノンだ。

レバノンには移民となった人が多い。それはなぜか。レバノンは列強に翻弄され、宗教的な対立や紛争が続いたことから、多くの人々が海外に活路を見出さざるを得なかった。ゴーン被告の生まれた南米ブラジルには、レバノン系の人々が本国の人口約600万人を上回る700万人も存在すると言われる。ゴーン被告の祖父は、レバノンから流失した移民の第一波と位置付けられ、20世紀の変わり目に南米に移住した

一族はキリスト教マロン派だが、このころのレバノンにはオスマン帝国統治下があり、マロン派とイスラム教ドルーズ派との対立が頻発。マロン派を中心に移民の流出が続いた。その後も中東戦争や内戦により、多くが国を後にした。



レバノンのヘルモン地区にある雪に覆われた山脈

残雪に覆われたレバノン山脈

伝統的に密接な隣国シリア、旧宗主国のフランス、シーア派のイラン、スンニ派のサウジ、トルコなど外国勢が介入し、レバノンは、しばしば覇権争いの舞台となった。困難な統治機構の改革を本気で後押ししようとする

国は現れなかった。人々のイスラエルへの憎悪は深い。一方でイスラエルを挑発し空爆を呼び込んだヒズボラに対する感情も複雑だろう。

レバノン大統領は形式的に軍の最高司令官を兼ねる。停戦発効後に大規模な戦闘は伝えられていないが、ヒズボラとイスラエルとの対立は続くであろう。米国のルビオ新国務長官はイスラエルのネタニヤフ首相と電話協議し、米国のイスラエルに対する確固とした支援の継続がトランプ大統領の最優先事項だと強調した。

ネタニヤフ首相は、米国の強い後ろ盾を得てヒズボラに対し強硬姿勢を取るであろうし、レバノン大統領はヒズボラに代わる国軍の強化を図るであろうがあまり期待は出来ない。今後ともレバノンとイスラエルとの対立は続き、不安定な状況が継続するであろう。